

1. 調査の目的と経緯

京都府立大学文学部考古学研究室は、1994年に3回生を迎え入れて発足した。その活動フィールドを選定するに当たり、京都府教育委員会森下衛氏の勧めもあって、夜久野末窯跡群の分布調査に取り組むこととした。当時は天田郡夜久野町であり、まもなく高内鎌谷遺跡の調査を契機に文化財専門職員が配属されたこともあり、町教育委員会と協業しながら調査を進めた。この成果は1997年に刊行された『京都府天田郡夜久野町遺跡地図』に反映されている。窯跡以外でも、長者森古墳の横穴式石室の実測をおこなう（図1）など、町域の文化財に目を向けるきっかけとなった。

その後、夜久野町は福知山市と合併し、新たな体制のもとで夜久野町史の編纂が続けられていたが、その通史編のために、改めて調査が依頼された。京都府立大学文学部考古学研究室として末窯跡群の資料を実測するほか、長者森古墳の墳丘測量に加えて竹ノ内古墳群と千切塚古墳群に対する測量調査を2010年3月におこない、長者森古墳に連なる古墳の探索をおこなった（菱田ほか2013）。

町史編さんののちに、末窯跡群については、民間の研究者である東昭吾氏が精力的に分布調査をおこない、新規に多くの窯を発見するに至った。こうした活動については菱田と東の双方を知る丹波市役所の西山茂己氏によって伝えられ、その成果を共有するため、福知山市教育委員会文化財係の松本学博氏と鷺田紀子氏とともに菱田、西山は、東昭吾氏の案内で2017年2月に末窯跡群の踏査をおこない、窯跡分布の現状を福知山市と共有することができた。その翌年、東氏の成果は報告書にまとめられたが（東2018）、明らかになった末窯跡群の価値をさらに広く普及し、保存と活用を図ることが課題となった。こうした点に加え、夜久野町化石・郷土資料館に所蔵されている古墳出土資料についても、十分に資料化ができていないといった課題もあり、広く夜久野地域の文化財を活用に向けて整備する必要が痛感された。そこで、京都府立大学の地域貢献型特別研究（ACTR）を利用し、2019年より継続して調査をおこなうことになった。

ACTRは年度ごとに申請するため、各年度にテーマや組織に違いがあるが、調査から発信、活用へとウィングをひろげてきた。具体的には、令和元年度から3年度は「夜久野末窯跡群を中心とした地域の文化遺産の調査と活用」（代表 菱田哲郎）として調査を継続し、4年度については、「京都府北部のMALUI連携による文化資源を活かした地域づくり」（代表 東昇）の一ブランチとして博物館連携に取り組み、5年

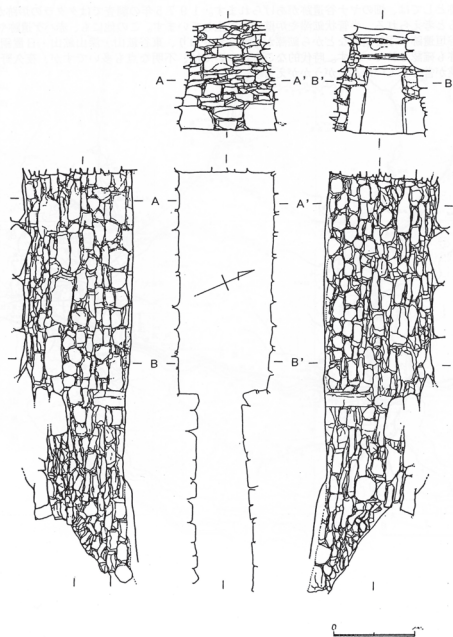


図1 長者森古墳石室実測図
(夜久野町教育委員会 1999)

度は、京丹後地域での取り組みと合わせて、「地域・学校・博物館との連携にもとづく文化遺産の次世代に向けた活用研究」というテーマで活用に向けた研究をおこなった。

研究組織は、考古学研究室の諫早直人氏と菱田が中心となり、歴史地理学の上杉和央氏、建築史の岸泰子氏が加わり、周辺の文化財にも目を配りながら夜久野の古墳や窯跡を調査する体制を組み、それに景観を評価する観点から生命環境科学研究科から環境デザイン学科の福井亘氏、また植生史の観点から窯跡群を捉えるため同研究科森林科学科の佐々木尚子氏、そして夜久野の地質に詳しい、生命環境学部非常勤講師の小滝篤夫氏が加わった。なお、小滝氏は福知山市の文化財審議会委員長を務めている。この組織に加えて、福知山市文化・スポーツ振興課の文化財担当、松本学博氏、鷺田紀子氏、さらに窯跡探索に大きな成果をあげた東昭吾氏を研究協力者として、研究にあたることになった。研究の後半では三次元データを用いた文化財の活用について詳しい京都府立大学文学部共同研究員の仲林篤史氏にも協力者に加わってもらっている。

それぞれの調査研究の経過は、各項に記述があるため、ここでは省略するが、全体としては、しばしば京都府立大学内で研究会をおこなって情報を共有したほか、調査成果についても、2021年と2022年に中間報告をおこない、新規発見の窯跡や新たに採集した資料を中心に示し、成果がわかるように務めた（京都府立大学文学部考古学研究室2021・2022）。また、各年度のACTRの成果報告は京都府立大学のウェブページに掲載されており、京都府立京都学・歴史館において毎年ACTRの成果を示すポスター展示においても掲示をしてきた。そして、地元向けの説明会については、コロナ禍のためにしばしば延期となっていたが、2023年3月に中夜久野地区公民館を会場に実施することができ、ようやく地域のみなさんにお知らせする機会をもつことができた（IV部1章参照）。さらに、2024年3月には夜久野町化石・郷土資料館の展示をリニューアルすることを予定しており、最新の調査成果を伝える場として活用する予定である。（菱田哲郎）

参考文献

夜久野町教育委員会 1999『京都府天田郡夜久野町遺跡地図』（夜久野町文化財調査報告4）同委員会

菱田哲郎・崎山正人 2013「考古資料から見た夜久野の古代」夜久野町史編さん室（編）『夜久野町史』第四巻（通史編）

福知山市

東昭吾 2018『京都府福知山市夜久野町所在 末窯跡群詳細調査報告書（1）—末古窯跡群詳細分布調査報告書—』

京都府立大学文学部考古学研究室 2021「夜久野末窯跡群の調査（1）」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第7号 同学科

京都府立大学文学部考古学研究室 2022「夜久野末窯跡群の調査（2）」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第8号 同学科

編集後記

本書の執筆・編集には、筆者含めた学生も少なからず携わった。思えば初めて末窯跡群の踏査に参加した時は、山の中で右も左もわからず先輩の背中にひっついていき、落ちている土器に夢中になっていた。後輩を先導する立場になると手元の地図と睨めっこしつつ、採取した土器の記録や、整理作業の日程を考えた。夜久野では先輩方の歩みも蓄積しており、私自身も他分野の先生方との合同踏査や資料の分析、成果報告会の開催などの得難い経験をした。その成果をこうして1冊にまとめ上げる段階に関わることができたことは感慨深い。多くの人と関わり、貴重な資料に触れる機会を得たことに感謝したい。(も)

表紙・裏表紙写真

上左：夜久野末窯跡群の調査風景

上中：長者森古墳

上右：ボーリング調査風景

下：夜久野末窯跡群の遠景（ナゲ地区）

(以上、菱田撮影)

裏表紙：小倉田古墳出土双龍環頭大刀

(栗山雅夫氏撮影)



京都府立大学文化遺産叢書 第28集

夜久野の後期古墳と末窯跡群

編集 菱田 哲郎 (京都府立大学文学部教授)
諫早 直人 (京都府立大学文学部准教授)
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
発行日 2024年3月29日
印刷 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2